

であった。以下、各報告事項と主な議論を記す。

1. 会長挨拶

兒玉裕二会長より、最近の分科会に関係した活動紹介があった。主なものとしては、国立極地研究所を中心とした GRENE 事業・北極、JPGU セッション「雪氷圏と気候」の「雪氷学」への統合、雪氷辞典(改訂版)についてある。また、次期会長候補として、幹事・水津重雄氏を挙げ、自身の会長任期を来年度までとする方針説明があった。

2. 「雪氷辞典について」

雪氷辞典改訂に参加している幹事の齊藤和之氏から経緯紹介があった。2011 年 1 月末、メーリングリストによる照会で、当分科会関連改訂の用語の意見募集を行った。現在は齊藤氏によって、追加用語と執筆担当候補が取りまとめられている。追加用語に関して、編集委員会としては、改訂前の 2 割増加程度に抑える方針である。当分科会からの新用語の候補数は適当である。会場から、新たに「書く人」以外に「見る(吟味する)人」を設けたほうがよいとの意見が出た。理由としては、記述内容についての専門性が低い場合が、前の辞典に見受けられたことによる。

3. 昨年度会計報告、今年度事業計画

筆者が事務局として、昨年度会計報告ならびに今年度事業計画の報告を行った。

昨年度会計：支出，収入，収支共に 0 円

今年度の事業計画として、分科会企画セッション

の開催、メーリングリストの維持、分科会 HP 作成・公開を挙げた。さらに、雪氷辞典への協力についても事業計画に入れたらどうかとの意見が出、雪氷辞典改訂への協力も加えることになった。講演会開催に関する提案については、学会開催期間と別に実施するのは難しいという意見が多数を占め、事業計画には採用しないことを決めた。

2011 年度事業計画

- ・企画セッション開催
- ・メーリングリストの維持
- ・分科会 HP の作成・公開
- ・雪氷辞典改訂への協力

4. その他

最後に、2011 年度の事務局体制を紹介した。さらに、分科会の会員数(70 名で昨年から 6 名増加)と、会員数に比べて企画や総会への参加者が少ない現状について報告した。来年度のオーガナイズドセッションのテーマについて、会場からの提案を募ったところ、雨雪判別や降水量観測法について提案があった。これらは、来年度のテーマとして検討することにした。さらに、固体降水量補正(または雨雪判別)は、過去にも議論があったので、そういったテーマについては継続的なフォローがあった方がよいとの意見が出た。

(海洋研究開発機構・地球環境変動領域 鈴木和良)

(2011 年 12 月 5 日受付)

吹雪分科会の報告

日 時：平成 23 年 9 月 22 日(木) 16:00~18:00

会 場：C 会場(ハイブ長岡 2 階会議室)

参加者：40 名

以下のとおり、講演会と分科会活動に関する議論を行った。

講演(最近の研究成果)

吹雪分科会の次世代を担う期待の若手 3 名から以下の講演があり、それぞれに対して質疑応答が行われた。

演題：建物周辺の飛雪現象の数値予測法の開発

講演者：大風 翼氏(東北大学大学院工学研究科)

風速や飛雪流量の空間分布を測定し、解析領域全域で飛雪空間密度の輸送方程式を解く新たな飛雪モデルの提案を行った。また、気象条件の時間変化や日射による融雪の影響を考慮するため、メソ気象モデルや雪面熱収支モデルと飛雪モデルを連結した降積雪予測システムの構築を行った。

演題：吹雪の帯電に関する実験的研究

講演者：大宮 哲氏（北海道大学大学院環境科学院）

吹雪粒子の帯電特性を明らかにする事を目的とし、低温風洞や野外において吹雪粒子の電荷測定を行っている。この結果から吹雪粒子のサイズや吹走距離、雪面の削剥されやすさ、絶対湿度量等が帯電量に寄与することが新たに明らかになった。

演題：道路吹雪対策マニュアルの再改訂について

講演者：渡邊崇史氏（土木研究所寒地土木研究所）

寒地土木研究所では平成 19 年度よりマニュアルの再改訂に着手し、平成 23 年に完成をみた。マニュアルの再改訂における主な追加・変更点を共通編、防雪林編から抜粋して紹介した。

フリーディスカッション

主題：大規模吹雪時の緊急調査について

吹雪災害調査に関してフリーディスカッションが行われ、昨今広範囲に発生する大規模な吹雪災害時に吹雪分科会としての取り組み方について議論が交わされた。

公益法人の役割を鑑みこのような調査にかかわることは重要であるといった積極的な意見がある一方で、組織や居住地が多様な会員の集まりでありまとまった行動はとりづらい、災害は社会経済にインパクトを与えるものなので吹雪現象だけ把握しても片手落ちである、吹雪最中の調査は現実的に困難といった意見が出された。それでも調査フォーマットを作成し活用してもらうこと、それに基づき災害状況を最低限把握すること、地方新聞記事などを収集し会員内で情報共有すること、会員外に発信していくこと等々、有益と思われることを検討し、実施できることから取り組む必要があるのではないかという意見が出された。

総会

以下のとおり総会を執り行った。以下の事項について報告が行われ承認された。

1. 事業報告

- (1) 講演会の開催
- (2) 吹雪分科会ホームページの運営・移設
- (3) メーリングリストの運用
- (4) 「新版雪氷辞典」の編纂協力

2. 事業計画（2011 年度）

- (1) 講演会の開催
- (2) 吹雪分科会ホームページおよびメーリングリストの運用
- (3) 「新版雪氷辞典」の編纂協力
- (4) その他

3. 「新版雪氷辞典」の編纂について

進捗状況や議論事項ならびに今後のスケジュールについて報告された。発行予定は 2012 年 3 月末である。（なお総会後の議論により吹雪関連用語として現行の 46 用語に 13 用語を追加する提案を行った。）

4. 次期役員選出

続いて、次期（第 3 期）役員選出が行われ、以下の役員が選出された。任期は 2013 年度の吹雪分科会総会時（2013 年秋）までである。

会長	松澤 勝	(独)土木研究所寒地土木研究所
幹事	杉浦幸之助	(独)海洋研究開発機構
	永田泰浩	(社)北海道開発技術センター
	根本征樹	(独)防災科学技術研究所雪氷 防災研究センター
監事	佐藤 威	(独)防災科学技術研究所雪氷 防災研究センター

懇親会

総会修了後、例年通り懇親会を行った。今回は、学術賞を受賞した佐藤威氏、技術賞を受賞した新潟電機株式会社石丸民之永氏、日本雪工学会学術賞を受賞した堤拓哉氏の受賞祝賀会をかねて盛大に執り行った。

なお、吹雪分科会の活動に興味のある方は吹雪分科会ホームページをご覧ください（年会費無料）。

<http://www.seppyo.org/~fubuki/>

（吹雪分科会会長 松澤 勝）
（2011 年 11 月 1 日受付）